



下田市立小・中学校 設置条例の一部を改正する 条例の一部改正条例の制定

市議会12月定例会において、平成34年（2022年）4月、現在の下田中学校敷地に設置する新しい中学校の名称を『下田市立下田中学校』とした改正条例案が可決されました。これにより、新しい中学校の校名が正式に決定されました。

新中学校校名 選定に至る経過

当初、教育委員会の附属機関である下田市立学校統合準備委員会（以下「統合準備委員会」という。）では校名案選定方法として、募集した案から複数候補を選び、再度その複数候補について投票を実施、その投票結果を参考に校名案を選定する予定でした。しかし、9月に実施した公募の結果、漢字表記の『下田』

が全体の5割以上を占め、次点の『伊豆下田』に大きく差をあげました。その理由として「下田市唯一の中学校になるため」や「下田市の中学校として『下田』が相応しい」等が挙げられました。

その後、10月に開催された第4回統合準備委員会において、応募のあった様々な校名案についても理由を斟酌し、慎重に審議した結果、先の理由に加え、次点の校名案と大きく差があったことなどから、予定していた投票を省略し、新中学校の名称を漢字表記の『下田』がふさわしいと全会一致で承認され、11月7日に教育委員会に対し、第一次答申が行われました。市では、統合準備委員会からの第一次答申を受け、同月中に教育委員会臨時会を開催し、予定されていた投票を省略したことについて、今後、校歌や校章など校名を起因と

制服選定について



平成30年12月16日（日）、道の駅開国下田みなと特別展示室にて、第1回新中学校制服等展示会を開催しました。平成34年（2022年）4月開校予定（制服等導入時期は開校2年前の2020年4月）の新中学校の制服、ジャージ（体操服）、カバンについて、それぞれのスタイルの方向性を把握するため、展示会の開催と中学校再編対象世代となる現小学校5年生以下（幼保こども園乳幼児含む）の保護者、全小中学校教職員を対象とした方向性アンケートを実施しました。

アンケートの集計から、冬服は男女ともにブレザータイプ、色については紺系、夏服は女子オーバードレス、男子開襟シャツ、またジャージは上下ともに紺・ブルー系、体操服は上が白系、下が紺・ブルー系、カバンは黒系がそれぞれ多い結果でした。それら方向性をもとに制服等メーカーにサンプル作製依頼を行い、2月17日（日）に開催される第2回新中学校制服等展示会にて、方向性が反映された制服サンプル、ジャージ（体操服）、カバンを展示すると同時にアンケート投票を実施します。

中学校再編に係る 様々な審議事項

新中学校開校に向け、現在様々な審議事項を協議・検討しています。今後もそれら審議事項について、随時、広報しもだをはじめ、「下田市立学校統合準備委員会だより」や市ホームページ等で情報提供をさせていただきます。



第一次答申の様子

下田市男女共同参画情報コーナー

ハーモニー

（第47号）

問合せ先 統合政策課政策推進係 ☎22212

男女共同参画社会の実現に向けた柱の一つとして、雇用や就業の分野における男女共同参画があります。

私たちの周りに従来からある性別による固定的な職業選択を見直し、性別ではなく、個人の意思や能力、希望や適性による職業選択が広がっていくことが必要になります。

今回のハーモニーは、今まで女性が多かつた保育や幼児教育の現場で、性別にとらわれない活躍をしている方を紹介します。

「下田幼稚園」 教諭 近持幸佑先生



① どうしてこの仕事に

子どもが好きだからです。中学、高校とボランティア体験で保育所に行き、子どもたちと遊んだことが良い思い出として残っていたので、それがきっかけになりました。

② これまでに悩んだこと

保育系の学校ということで専門的な知識を学ぶことができる一方、仕事の選択肢が少なくなるのが心配でした。また、学校も職場も圧倒的に女性が多いところなので、そこはかなり悩みました。

③ 現在の感想

子どもたちと毎日関わることは、とても楽しいです。想像していたよりかなり大変ですが、皆さんに助けてもらい、とても感謝しています。

④ これからの夢

今はまだ明確な夢や希望が見えていませんが、子どもたちと関わる仕事をしていくために自分の強みを少しずつ増

やし、子どもをもつと楽しませることができるようになりたいです。

「下田幼稚園」 園長 楠山雅子先生

幼稚園として初めての男性教諭の配属であり、園運営はもちろんのこと、トイレや更衣室などの、施設や設備などの面でも、その対応に悩みました。

新規採用、初の男性幼稚園教諭、年少組担任、全てが初めてで、本人も入園式では相当緊張していました。しかし、本人の頑張りで少しずつ保護者との関係もでき、頑張っている様子が伝わりと評価をいただきました。体を動かし子どもとふれあい遊ぶ姿には、たくましさや爽快感があり、私たち女性職員が母性で子どもと接しているとしたら、父性で関わる姿を感じます。しかし、大切なのは、男性、女性の性差ではなく、組織の一員として教育の活性化が図られる存在であることです。今後、幼児教育において男性教諭の存在が自然になることでしょう。幼稚園教育の重要性を意識し、教育の場として

幼稚園の生活や遊びを保証し展開する力をつけていくことを期待します。

「下田認定こども園」 保育教諭 森 勇太先生



① どうしてこの仕事に

保育の勉強で乳幼児期の保育・教育の大切さを学び、とてもやりがいのある仕事だと思いました。子どもと実際に関わっていく中で日々学び、成長していく仕事だと考えためです。

② これまでに悩んだこと

大学までは周りに男性がいなかったが、初めての職場は女性だけなので不安でした。周りに40〜50歳の男性保育者がいないので、自身の将来像をイメージするのが難しいです。

③ 現在の感想

保育で悩むこともあります。園でたくさん子どもたち

ちと関わりながら、楽しく過ごしているのが、子どもたちからたくさんパワーをもらっています。

④ これからの夢

毎日子どもたちと楽しく過ごせるよう、学んだことを積み重ねていきながら、今後、後輩ができたらずいでも力になれるようにしたいです。

「下田認定こども園」 園長 臼井有子先生

子どもにとって男性の先生は魅力ある存在で、職場内の活性化にもつながります。保護者にも人気があり、よい刺激になっていると思います。

日頃の保育では、一人ひとりの子どもに丁寧に関わり、優しく接しています。ただし、指導してくれるメリハリがあります。体を動かしたくさん遊んでくれるので子どもたちから慕われています。

これからも、女性が多い職場の中でも自身の個性を伸ばしながら、ともに働く楽しさややりがいを感じ取ってほしいと思います。お互いを認め合いながら、自分の良さを活かしていつてほしいです。